

第 424 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 令和 8 年 9 月 1 日（火） 11:00～13:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取講評 [番組名] K-MIX ROOTS RADIO
[放送日時] 令和 8 年 8 月 2 0 日（木）
4. 出席者 [委員]
委員長 木宮敬信 副委員長 角田哲康
委員 服部乃利子 委員 加藤裕治
委員 小野晃司 委員 土屋維子
(6 委員 / 6 委員)

[会社] 代表取締役社長 井熊正浩
常務取締役放送事業本部長兼編成制作部長 杉山啓充
編成制作部 山本知照
編成制作部シニアマネージャー 鈴木秀明
5. 事務局報告 ○K-MIX の上期の営業見込みの報告とラジオトレンドについて
6. 番組審議
[番組名] K-MIX ROOTS RADIO
[放送日時] 令和 8 年 8 月 2 0 日（木）
[出演者] D J R o n i
[番組内容] 2023 年度より 4 年目を迎えた、K-MIX 夜帯の番組
「K-MIX ROOTS RADIO」は、音楽を軸に、
パーソナリティの個性やトークを交えながら、平日の
夜にリスナーが心地よく楽しめる時間をお届け。
パーソナリティならではの視点や日常の話題なども
織り交ぜ、さまざまな音楽との出会いや発見を
楽しんでもらいながら、曜日ごとに異なるジャンルの
ゲストや情報を発信し、平日の夜に県内の
さまざまな魅力を届けます。

[聴取・合評での主な意見]

土屋委員

音楽を深掘りして聴かせてくれる番組は、今や貴重でもあり、このコンセプトは大切にすべきだと思う。また、D J R o n i（以下 R o n i）の音楽をはじめとする知識は番組に活かすべきだと思う。これまで、R o n i のトークのテンポに耳を合わせて行くことが難しい時もあったが、現在のR o n i には、全く感じない。とても、心地よく響いてくるトークである。番組内のゲスト招くコーナーは、少し唐突に感じた。もっと、音楽に関わるもの中心で構成してみても良いと思う。この番組は、R o n i の良さが出ていると思う。

小野委員

音楽の選曲のセンス、音楽番組としてのR o n i のトーク（曲に対する解説）も良い。R o n i は常日頃から番組内で語る内容について、事前に体験しており、SNS等でも発信している。そのスタンスが全くぶれることなくキャリアを積んでいることが、聴取者に受け入れられているのではないだろうか。時に言葉遣いが少し近すぎると感じることもあるが、ラジオパーソナリティとしては、許容される範囲であると思う。明るくテンポのあるトークはその雰囲気だけで相手を魅了している。

加藤委員

そのキャリアに根差したトークは“Roni 節”ともいえる個性がある。最近はやや落ち着いた観もあり、もっと弾けても良いと感じる。解説有りの音楽番組は、昨今のラジオ番組ではなかなか発見が難しく、大変有意義である。番組構成も良く、番組内の空気感もしっかり醸成されている。一方で、ゲストコーナーや番組からのお知らせでは、“Roni 節”要素が抑えられていたので、こちらもう少し弾けても良いと思った。知識・情報はしっかり提供されているので、番組の中にRoni さんの「雑談」要素を入れると、より幅のある番組になると思われる。

服部委員

放送される楽曲とRoni のトークがよくマッチしており、番組全体に温かみを感じられる。各場面の切り替えも絶妙で、次の展開へスムーズに移行できている。Roni の言葉遣いは、身近な知人と会話しているような距離感がちょうど良く、番組全体に音楽が主となって散りばめられていることも心地良い。楽曲の解説に加え、Roni 自身の個人的な思いや感情がもう少し伝わると、さらに番組の魅力が深まるのではないか。番組のコンセプトにも一貫性があり、長く聴き続けている固定リスナーが多くいることを感じさせる番組であった。

角田副委員長

K-MIXの看板パーソナリティの一人であることは間違いなく、キャリアも着実に積み上げている。そのためか、かつてのギラギラした個性だけではなく、トークに丸みを帯びてきている。ギラギラ感は減ったものの、その個性はキープされており、全体的に、“Ron iの世界観”を作る力は、相変わらず凄い。今は、その個性に魅力を感じる常連聴取者にしっかりと支持されていて、番組の安定感もあるが、今こそ、新規の聴取者の獲得を意識する時期でもあるのではないかと思われた。夜の時間帯をより意識した展開も考えられる余地を残している番組であると思われる。

木宮委員長

番組については、「番組コンセプトありき」か「パーソナリティありき」かと、よく言われるが、この番組はROOTS RADIOならぬ“Ron i’s RADIO”であると思う。番組全体がRon iの好きなもので構成されていて、だからこそ、音楽もゲストも、番組からのお知らせも、存在できている。Ron iというパーソナリティを支持する層には、当然、受け入れられると思うが、初めて聴いた聴取者には、情報がたくさんありすぎて、理解するのには少し時間が必要なのではないだろうか。全体的に、情報を整理して、話の「行ったり来たり」を整理すると、かなり、理解しやすくなると思われる。固定ファンのさらなる安定を目指すのか、新規聴取者の獲得を目指すのか、今後の方向性に注目の番組である。

会社サイド

2023年の番組開始当初から聴取者を獲得するために様々な手法を用いて、現在の形態に落ち着いた。この番組に限らず編成全体として、新規聴取者の獲得として、番組や担当パーソナリティの“推し”を増やし、その“推し”による聴取時間の拡大、聴取番組の拡大をはかっている。本日のご意見を参考として今後の番組制作に番組編成に役立てたいと考える。

以上

次回開催日 令和8年10月6日(火) 11:00～13:00を予定

番組審議会委員長
木 宮 敬 信